

Chuo Vision 2025

中央大学 中長期事業計画 第2期

中央大学法学部1～4年生が2023年4月から茗荷谷キャンパス(文京区)に移転

新キャンパスで始まる新時代の法曹養成

中央大学は、2023年4月に、東京都文京区に茗荷谷キャンパスを開設し、法学部(全学年)、大学院法学研究科を多摩キャンパス(東京都八王子市)から茗荷谷キャンパスへ移転します。新キャンパスは東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅から徒歩1分です。また、茗荷谷駅から一駅の後楽園キャンパスに日本比較法研究所も移転します。

中央大学は、1885年に英吉利法律学校として創設され、法学部は、その精神を受け継ぐものとして、法学教育と研究に力を注いできました。法学部の都心展開は、創立130周年にあたる2015年に、その後の10年間を見据えて策定した中長期事業計画

「Chuo Vision 2025」に基づくものです。

いまここに135年以上の伝統と実績を受け継ぎ、「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもと、引き続き、新たなキャンパスで地球的な視野に立った法的問題意識と法的問題解決能力を備えた人材を養成します。

法学部3年間+ロースクール2年間、合計5年の一貫教育による新たな法曹養成制度のもと、法学部の都心展開により、ロースクール(新宿区の市ヶ谷キャンパスから、2023年に千代田区の駿河台キャンパスに移転)との一体的な運用がこれまで以上に可能となり、法曹教育のさらなる充実を図ります。

新時代の法曹養成へ 法学部と法科大学院(ロースクール)の連携強化

- ・駿河台(御茶ノ水)に移転する中央大学法科大学院(ロースクール)とは地下鉄で3駅の距離。一貫教育の他、教員の相互授業担当により法曹養成の機能をさらに強化。
- ・法曹、公務員養成機能を担ってきた炎の塔の機能も移転。茗荷谷を拠点とした新たなキャンパスでの一体的な学びが可能に。

学びのフィールドはさらに拡大、学びのかたちもより充実

- ・アクセスのよい立地と伝統大学としてのネットワークを活用し、法曹・企業・公務で活躍する実務家教員による授業の充実をこれまで以上に図ります。また、実務経験を行うインターンシップ等をとおして学びの機会をさらに拡充します。
- ・都心部に位置する理工学部(後楽園キャンパス)、国際情報学部(市ヶ谷田町キャンパス)との連携を強化し、文理融合による共同科目を開講予定。総合大学ならではの強みを生かしたシナジーを創出し、学問の新たな扉を開きます。
- ・日本比較法研究所、大学院理工学・法務研究科、研究開発機構などとの新たな研究上のコラボレーションの実現。
- ・初年次教育や外国語授業では少人数制できめ細やかな指導体制を構築。
- ・図書館と一体化したラーニング commons の充実により学生の自主的な学びを支援。



茗荷谷キャンパス 外観イメージ

法学部の都心移転 概要

時期	2023年(令和5年)4月
キャンパス	茗荷谷キャンパス
所在地	東京都文京区大塚1-58-33(東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷駅」徒歩1分)
対象	法学部全学年 ※2023年度以降入学生は、1～4年次が茗荷谷キャンパスで学びます。 2022年度入学生は1年次のみ多摩キャンパス、2～4年次は茗荷谷キャンパスで学びます。

茗荷谷キャンパスの外観は、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとしつつ、低層階には、旧駿河台校舎と同じ尖頭型アーチを取り入れています。教室は遠隔授業やハイブリッド型授業に対応する仕様となるほか、図書館や食堂は、創立者が学んだイギリスのミドルテンプレをモチーフとしたインテリアを採用予定です。大学施設のほか、文京区の地域活動センターや保育所などが併設される予定で、地域との共生、地域への貢献を目指します。



春日通り側コリドール内イメージ



茗荷谷キャンパス 外観イメージ

「中央大学都心キャンパスの新展開：多摩と都心の2大キャンパス形成」をテーマに座談会を実施

学校法人中央大学理事長 大村雅彦、中央大学学長 河合久、中央大学法学部長 猪股孝史、中央大学大学院法務研究科長 小林明彦の4者による座談会を実施いたしました。

2015年に策定した中長期事業計画「Chuo Vision 2025」に基づくキャンパス展開により、中央大学がどのように発展することを目指しているのかについて、「法学部都心展開のねらいや意義」「2大キャンパスの位置づけ」「5年一貫の法曹養成の展開」「高度専門職業人養成の拠点の一つとしての駿河台キャンパス」などを語りました。



理事長 大村雅彦



学長 河合久



法学部長 猪股孝史



大学院法務研究科長 小林明彦

座談会の様子は、中央大学公式 youtube で2022年1月以降に公開予定です。



駿河台キャンパス

駿河台記念館跡地に駿河台キャンパスを建設中。2023年4月供用開始予定です。

駿河台記念館は、長らく教育・研究の場として広く活用され、同時に、卒業生や教職員の交流、地域住民や一般の方への公開講座開設など、都心における本学の多岐にわたる創造活動の拠点として、大きな役割を果たしてきました。

その駿河台記念館を建て替え、専門職大学院法務研究科(ロースクール)および戦略経営研究科(ビジネススクール)を移転。教育・研究施設として展開するほか、全学的な利用にも供する予定です。

駿河台キャンパス概要

所在地	千代田区神田駿河台3-11-5 (JR 御茶ノ水駅 徒歩3分、丸の内線 御茶ノ水駅 徒歩6分)
館内施設	専門職大学院法務研究科(ロースクール)および戦略経営研究科(ビジネススクール)の教育研究施設、 学生会本部機能、旧駿河台記念館に収容されていた諸機関の利用、全学的な利用の大会議室、サロン など
階数	地上20階、地下1階

外観は、かつての駿河台校舎三号館を参照し、これからの中央大学が大きく羽ばたいていくような軽やかで上昇感のあるファサードとなります。



駿河台校舎三号館



新キャンパス外観(イメージ)

これまで以上に、学生、卒業生及び教職員が親しみ集える施設として新たに生まれ変わります。



エントランスロビー



カフェテリア



ホワイエ



大会議室

※パース図は計画段階のものであり、施工上等の理由により変更となる場合があります